

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200041		
法人名	社会福祉法人 真寿会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 真寿苑		
所在地	田辺市新庄町3165-1		
自己評価作成日	平成29年1月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp">http://www.kai.gokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模の利点を生かし、職員が利用者一人ひとりと深くかかわり、担当者を決める事により、きめ細かいケアを実践するように努めている。散歩や外出を日常的に支援し季節の行事をする事で四季を感じてもらえるようにしている。法人医療機関と訪問看護により安心して生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から約10年が経過し、グループホームとして安定した運営がなされている。更に1ユニット9名の小規模である強みを活かし、職員と利用者のより深い信頼関係のもと、きめ細やかなケアが実践されている。また、事業所が、海の近くに建設されていることもあり、地震による津波に対する意識は高く、災害発生時に備え、ライフジャケットの常設、緊急避難用の車両準備等々、職員一人一人が的確に避難誘導できるよう訓練されている。医療と介護の連携に目を向けると、主治医と訪問看護師が毎週交互に事業所を訪問し、利用者の健康管理に努めている。緊急時には、昼夜問わず法人の医療機関に属する主治医の適切な指示で素早く対応し、ご家族、利用者が安心して過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人権を尊重し優しく思いやりのある介護を行い、地域に根ざした福祉サービスの提供を理念として掲げ月1回のケアサポート会議で理念に沿ったサービスができるように話し合っている。	法人の訓示や事業所の理念を朝の申し送りの際に唱和し、いつでも確認できるよう出入り口付近に掲示している。更に、より具体的に理念を実践できるように定期的にケアサポート目標を決めてより質の高いケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅が少ないが、買い物散歩を日常的に行うことで交流の機会を設けてふれあいを持つようにしている。	事業所周辺は、住宅地でないため、外出時に住民と交流することは少ないが、買い物の時や町内会の行事、併設のデイサービスのイベント等、機会があれば積極的に交流を図るようにしている。	事業所と同じ地域には、同法人が運営する特別養護老人ホームがある。法人の強みも生かし、施設間で連携を図り、地域住民も参加する法人での様々な行事にも積極的に出向くことで、より地域との関係性を深められるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談・見学の問い合わせには都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに運営推進会議を開催しサービスの取り組み状況や現状を報告し話し合いの中で出た意見をサービス上に活かしている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。ご家族、行政、町内会からの参加があり、事業所からは利用者の状況、行事予定等、情報提供している。また、参加者からも貴重な意見をいただく事もあり、事業所のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者も参加してもらい現状を伝えている。電話での問い合わせを受けたり相談アドバイスを受けている。	運営推進会議へ参加する市の職員も代わったが、継続した参加があり、定着している。また、他の機会でも空き状況等の相談や情報交換があり、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての研修を受けており身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。玄関は午前9時～午後4時までは施錠していない。	法人内では、身体拘束も含んだ人権研修を年1回開催している。今年は、事業所内での開催を予定している。法律的に禁止された行為だけでなく心理的抑制などの部分にも配慮している。また、玄関の施錠の時間帯についても常に意識し、抑制しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修を受けており理解できている。また、お互いに相談報告する関係に努めており見過ごされることがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修を受けている。日常生活自立支援事業の支援を受けている利用者が以前いたが現在はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解し納得していただいたことを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員は月1回自治会を開き生活全般の希望や不安・不満を出し合い生活に反映するようにしている。運営推進会議を開き家族の意見要望も反映するようにしている。	長年継続されている事業所での自治会には、多くの利用者と職員が参加している。普段の生活の中では聞き出せないような活発な意見もあり、特に食事、外出に関する意見が多い。事業所もこのような意見を踏まえて日常生活での工夫や行事の企画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の初めに職員間でケアサポート会議を開き意見や提案を聞き運営に反映させている。入所者一人一人に担当者を決め意見を聞いている。	毎月開催するケアサポート会議において、管理者からの情報提供や職員からの意見・提案などについて検討されている。また、話の内容により、職員が個別に相談できるようにも配慮している。担当制を採用し、職員の積極的な気づきを促せるような取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め労働時間に関し本人の希望をできる限り考慮した勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修のほか外部の研修案内も回覧しケアの向上に生かしてもらうように努めている。介護技術については法人の研修もあり現場でも都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて他の施設職員との交流、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけでなく家族にも話を聞く機会を設け、苑での生活で不安な事、要望を詳しく聞き、環境が変わっても安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に今までの暮らしぶり本人の状態について詳しく聞いたうえで不安な事や要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスをよく聞いた上で、他のサービスが必要な時は紹介なども行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしや得意な事好きなことを知ったうえで共に家事をしたり出かけたりし共に暮らしていく者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には少しの生活の変化であっても連絡、報告し本人の状態を理解してもらい共に支えていく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来られた時には歓迎すると共に、ゆっくりとくつろげるように配慮している。また、理・美容室への外出など家族と分担しながら支援に努めている。	事業所に入居されてからも継続して馴染みのある理・美容室等が利用できるよう家族と職員が協力して支援している。また、家族や知人が面会に来られた時には、心地よく、ゆっくりとした時間が過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように席を工夫したり利用者同士が会話をし支えあえるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られた後も本人家族の相談や支援にできる限り添えるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間シートを活用し本人の1日の生活を明確にし本人の意向の把握に努めている。自治会を開き希望を聞いている	利用者の方をより深く理解するためにアセスメント様式『センター方式シート』の24時間シートを活用して意向の把握に努めている。また、利用者に担当する職員を定めたことで、積極的な気づきを促し、思いや意向の把握が深まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族から生活歴暮らし方生活環境を聞き自宅から家具や趣味の道具類を持ってきていただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室日誌に日常の細かい生活を記録し朝夕の申し送りで職員が現状を把握できるように努めている。バイタルチェックで身体の変化にも注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当を決め月1回行われている。ケアサポート会議で職員の意見を聞き、本人家族等の意向を考慮し介護計画を作成している。	利用者に対して、担当職員を定めているため、日常生活の気づきがモニタリングに反映されている。また、ご家族の意向や主治医、看護師からの情報収集も丁寧に行い、毎月のケアサポート会議で介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の居室日誌に細かく記録し申し送っている。月1回のケアサポート会議でもケアの見直しを行い、実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の受診や入院によりご家族が対応しきれない場合や、遠方におられるご家族に変わっての買い物等に柔軟な支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に季節の花を見に行ったり海岸を散歩したり温泉での足湯やドライブなど楽しみをもって暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの往診と随時の電話相談をし、必要な時は他の医療機関に紹介状等をいただいた上で受診支援している。	ご家族、利用者の意向も踏まえ、2週間毎に法人内診療所から主治医が往診している。必要時には、他の専門科の医療機関を受診できるように支援している。また、往診の無い週には訪問看護師が来て対応しており利用者の方に安心感を与えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間ごとに訪問看護があり相談したり主治医に報告し適切な指示を受け、利用者の異変時は24時間対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を伝え、治療に対する説明を聞き、退院時には今後の対応について情報をもらい相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護が重度になりつつある利用者については家族に今後の支援と対応の限界について説明し意向を聞き今後について話し合っている。	入居時には、事業所としてターミナルケアを実施しないことをご家族や利用者の方に説明し理解を得ている。また、重度化した際には、医療機関への入院の必要性の判断や併設する特別養護老人ホームへ移行等も検討し、利用者の心身の状況に応じて誠実に対応している。	事業所が終の棲家として、ご家族や利用者の方の意向が大前提であるが、開所され10年が経過し、長年、我が家として過ごされてきた方にとって、同じ居場所で最期を迎えたいという思いを大切に、直ぐに実現できなくても一歩でも前進した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命の講習を受けており訓練も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年1回の避難訓練を行いつつ定期的にホーム単独でも行っている。地域の避難訓練にも参加し運営推進会議の席上でも地域代表の方にホームの実態を説明し、協力をお願いしている。	海辺に立地しているため高潮・津波などの水害を想定した避難・誘導訓練が定期的に行われている。ライフジャケットの設置、緊急移動用車両の準備など、事業所で働いている職員の意識も高く、常に災害が発生した際の行動を念頭に業務を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へのケアを行う際の言葉かけはプライドを傷つけないようにさりげない思いやりのある対応を心掛けている。	朝の申し送りでは、訓示の中から今日の目標を唱和し、常に利用者の方への尊厳あるケアの実践に向けて啓発している。また、言葉遣いにも気を配り、職員間で互いに注意し合える関係を築くよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情を見ながら思いを感じ取り、ゆっくりと言葉をかけながら自己決定を促すように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出が好きな利用者には里に出る機会をつくりホームで過ごされる利用者には自分のペースで好きなことをみつけて過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が来苑し散髪を行っている。季節に合った服を用意し同じ服を着ることのないように注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな色のランチョマットを選んでしてもらい、一人一人にあった大きさ重さの食器をつかってもらっている。テーブル拭きやおしぼりたたみを手伝ってもらっている。	基本的な献立は栄養士が作成するが、季節の食材や利用者の意向に添って臨機応変にメニューを変更し、より食事が楽しめるように配慮している。また、利用者の能力を把握し、おしぼりたたみ、配膳、テーブル拭きなど参加を促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立を参考に食事を作っている。毎食食事と水分の摂取量を記録し十分な食事が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシ、クルリーナブラシ、液体洗浄剤を個々に応じて使い分けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にケアのたびに記録し個人の排泄パターンを把握し、トイレに誘導するようにしている。	排泄表を利用して利用者の方の排泄パターンを把握して誘導や声かけを行っている。夜間帯も利用者の方の意向にも配慮し、パットやリハビリパンツを使用している。個々の人格を尊重し、排泄を自立に近づけることが、心身ともに穏やかな生活に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを毎日つけたり、献立に繊維類を多く取り入れたりしながら自然排便に心掛けている。排便がない場合は通じ薬でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回本人の体調、気分を聞いて入浴してもらっている。希望により2回以上入浴される方もいる。季節により菖蒲湯、柚子湯をすることがある。	利用者の意向や体調に配慮しながら週2回以上は入浴できるようにしている。季節を感じ、楽しく入浴できるように菖蒲湯や柚子湯をすることもあ。また、認知症状の進行等により入浴を拒否される方には、無理強いせず声かけや時間帯を工夫し入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は一人一人に合わせて昼寝をしてもらったり、ソファでゆっくりすわってもらったりしている。夜間は布パンツの方もいるがパットや紙パンツなど必要に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員は理解しており、毎日その日の担当者が服薬を管理している。薬の変更は申し送っており症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人に会って家事をお願いしている。買い物、散歩、ドライブ等に誘い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの遠出のドライブをしたり日常的に体調を見ながら軽自動車で出かけたり事業所周辺を車いすで散歩したりしている。	日常的な外出は、その日の体調や天候もみながら、海が近い事業所周辺を散歩している。また、初詣やお花見等、季節毎にドライブに出かけたり、嗜好品の買物等は、少人数でその都度自動車に乗って近くのスーパーなどへ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物は預り金よりお金を出し買っている。自身では金銭管理はできず預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類からの電話をとりついたり自身から電話をかけたいとの希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに職員利用者が手作りして壁を飾っている。また行事を写した写真を共用の空間に飾ったり、季節の花を活けたり話題をつくり楽しく過ごせるよう支援している。	利用者の方が季節を感じるができるよう飾り付けをしている。また、限られた共有スペースだが、家具やテーブルの配置を考え、生活の様々な場面で楽しく、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小テーブルを利用し一人になれる場所を作ったり気の合う者同士が近くで過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談し、自宅で使っていた家具や手作りのもの写真を飾っている。	入居する際には、思い出や馴染みのある家具、写真等を持参してもらうよう積極的に働きかけている。居室には、家族や行事の写真、自作の飾り物、絵画などが飾られて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に戻る際、目印になるものを壁に吊り下げたり本人家族に了解の上大きく名前を記入した紙を居室入り口に貼らせてもらっている。		